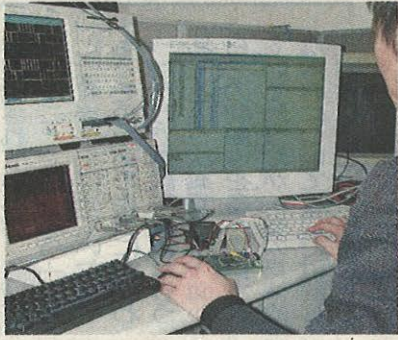


ニューウェーブ

浜松

～木曜日に掲載～

18



ルネサステクノロジ製マイクロプロセッサ対応の不具合発見・修正支援システムは、低価格が受けて販売を伸ばしている(浜松市のアルファプロジェクト本社)

電子応用機器の設計・開発や組み込みソフトウェアの受託開発などを手がけるアルファプロジェクト。事業分野は、画像処理機器やネットワーク機器、PC(パソコン)周辺機器、FA(ファク

トリーオートメーション)機器、計測機器、医療機器向けなど多岐にわたる。一九八六年に創業し、静岡県浜北市(現浜松市)の四畳半の事務所からスタートした同社は、顧客

▶▶アルファプロジェクト



伊達隆昭社長

▽住所＝浜松市上島4の4の24(☎053・464・2166)▽設立＝1986年9月▽資本金＝2350万円▽事業内容＝電子回路・電子機器の設計、組み込みソフトウェアの開発▽社長＝伊達隆昭氏▽従業員数＝37人▽年間売上高＝5億2300万円

ニーズにこたえる技術者集団」として成長。現在では年間売上高が五億円を超え、経常利益も八千七百万円と、一億円の大台が視野に入ってきた。中核事業は、ボードコ

どを組み込んで特定の機能やシステムを実行するコンピューター。機器制御には欠かせない存在で、自動車や携帯電話、デジタルカメラなど、あらゆるところで利用され

自社開発強化に注力

ンピューターと開発支援ツールの開発で、「これらで売り上げの約八割を占めます」と伊達隆昭社長は話す。ボードコンピューターとは、機器にマイコンな

「カーとして自立していく考えた。受託開発が売上高の約六割を占める同社としては、「自社開発製品の比率を一層高めていく必要がある、次代を担う人材の確保・育成に努めています」というわけだ。産学連携では豊橋技術科学大学とナノテク関連の「走査型トンネル顕微鏡」を共同開発し、新たに「原子間力顕微鏡」の開発に着手した。「この原子間顕微鏡が実用化されることになれば、半導体や液晶の素材解析などに大きな威力を発揮します」と、伊達社長は期待を膨らませる。四月からは静岡大学との連携も計画、事業領域を大きく広げようとしている。(小森茂)